

シグマ委員会
元年度第3回運営委員会議事録（案）

日時： 1989年7月28日（金） 13:30～17:30
場所： 幸ビル（東京都千代田区内幸町1-3-1）1306号室
出席者： 鹿園（委員長、原研）、中嶋（法政大）、北沢（東工大）
吉田（NAIG）、五十嵐、石井、菊池、水本（原研）
幹事： 中川、中島（原研）
オブザーバー： 松延（住友原工）、井頭（東工大）

配布資料

- 1.元年度第2回運営委員会議事録（案）とアクションリスト
- 2.シグマ特別専門委員会・シグマ研究委員会本委員会議事録（案）
- 3.ANS 5.1 Membershipに関するDr. R. E. Schenterから五十嵐氏（原研）宛と吉田氏（NAIG）宛の手紙
- 4.INDC報告
- 5.原子力学会1989年秋の大会（核データ・炉物理）合同特別会合
- 6.1989年NEA Data Bank 委員会議事録抜粋（1990年の活動計画）
- 7.Summary Record of the NEANDC/NEACRP Task Force Meeting on International Cooperation in Evaluation
- 8.核データ評価国際協力案
- 9.JENDL-3データの追加および変更について
- 10.1989年核データ研究会内容（案）
- 11.核データデータブックの作成方針（答申書中間案）の一部

議 事

- 1.前回議事録確認
前回6月9日の議事録を確認した。
- 2.シグマ特別専門委員会・シグマ研究委員会本委員会議事録確認
6月23日の特別専門委員会・本委員会の議事録を確認した。
- 3.事務局報告
 - 1) Nuclear Level Densities 専門家会議出席者について（五十嵐）
本年11月イタリアBolognaで開催される上記の会議に佐藤氏（東北薬科大）が招待講演を依頼されて出席する。論文の代読の必要があれば佐藤氏に依頼できるよう頼んである。
 - 2) NEA Data Bankの On-line serviceにつて（菊池）

NEA Data BankのTubbs氏から五十嵐氏へData BankのServiceをOn-lineで行う旨連絡があった。原研が一元的にData Bankに依頼していた従来の体制と矛盾するので、官庁との調整が必要である。菊池氏が8月中旬に浅井氏（原研計算センター）、科技庁と打ち合わせて、どうするか決め次回の運営委員会に報告する。

4. ANS 5.1委員会について

吉田氏から次の通り報告があった。米国原子力学会は崩壊熱基準を改訂するため上記委員会の活動を再開することとした。年1-2回の会合が開かれ数年続く予定である。吉田氏(NAIG)と片倉氏(原研)が委員として委嘱され、勤務先の了解をとった。

5. INDC第17回会合報告

INDC委員として上記会合に出席した鹿園氏が会合の概略（配布資料4）を次の通り報告した。会議の最重要課題はIAEA/NDSの1991-1992年の活動計画の審議であった。NDSの活動は、データ提供サービスと核データの応用に関する活動の二つに大きく分けられる。前者についてはNDSの原案（4大センターとしての役割と途上国の人的資源の開発）がそのまま承認された。後者についてNDSの原案は（1）核融合への応用、（2）医療、資源探査への応用、（3）核分裂炉への応用、という優先順位であったが、委員会の結論は、優劣をつけることはできないが、敢えてつければ、（1）核分裂炉への応用、（2）核融合への応用、（3）医療、資源探査への応用、であった。JENDL-3をFENDLに使いたいとの希望が強かった。CINDAを発行して欲しいとの希望が強かったが、発行するかどうか結論はでなかった。

6. 原子力学会特別会合テーマ

原子力学会秋の大会（核データ・炉物理）合同特別会合（配布資料5）について中川氏が説明した。前回保留になっていた炉物理関係のテーマは

「加速器遮蔽における核データの諸問題（東北大サイクロ）中村尚司」

と決定したことが報告された。

7. CINDAについての補足説明

NEA Data BankがCINDAを発行する可能性があることをData Bank委員会の議事録（配布資料6）に基づいて五十嵐氏が説明した。

8. 1989年核データ研究会プログラムおよび準備について

プログラム委員会で検討した1989年核データ研究会プログラム

案および準備状況（配布資料10）について井頭氏が説明した。講演者の一部について変更した後、プログラム案を承認した。外国へのアナウンスは国際情勢とのからみもあるので、アナウンスするかどうかは事務局に一任した。原子力学会誌に研究会の案内を出すことを決定した。

9. JENDL-3の公開について

JENDL-3データの追加および変更（配布資料9）について菊池氏が説明した。原研ではソフトウェア管理規則が10月1日から施行されるので、JENDL-3の完成が遅れると、JENDL-3がこの規則適用第一号になるかもしれない。

10. 核データ評価国際協力作業グループおよびメンバー

核データ評価国際協力案（配布資料8）について菊池氏が説明した。この案は総花的であるとの意見が強く、菊池氏がグループリーダー会議を招集し、テーマについて詰めることとした。

11. 専門部会等の活動状況

(1) 核データデータブック作成検討小委員会

核データデータブック作成方針について吉田氏が答申書の中間報告（配布資料11）をした。実験値を図にプロットするかどうか意見が分かれた。次回にExamplesをつけて答申を提出することにした。

(2) 核融合核データワーキンググループ

核融合核データでは各反応のエネルギーバランスがとれていることが必要なので、JENDL-3についてチェックをする予定であることを中島氏が報告した。これにたいしJENDL-3には荷電粒子のエネルギースペクトルが入れてないので、正確なエネルギーバランスはチェックできないが、一応はチェックしてあるとのコメントがあった。

12. その他

今回は9月14日（木）に原研本部で行うこととした。オブザーバーは今まで通りとする。

Action List

No.	担当者	内 容	期 限
1	菊池	NEA DataBankのOn-line serviceについて浅井氏とともに科学技術庁と打ち合せをして、結果を次回に報告する。	8月末
2	井頭	1989年核データ研究会のアナウンスを原子力学会誌に出す。	9月号
3	事務局	1989年核データ研究会の外国へのアナウンスをするかどうか検討する。	8月末
4	菊池	核データ評価国際協力についてグループリーダー会合を開き日本側の案を決める。	8月末
5	吉田	データブックについて答申を準備する。	次回